

著者紹介（掲載順）

吉野一徳（とまの・いっとく）

一九八〇年生まれ。熊本大学教育学部准教授。博士（教育学）。著書に『はじめての哲学的思考』（ちくまプリマー新書）、『子どもの頃から哲学者』（大和書房）、『「自由」はいかに可能か』（NHKブックス）、『教育の力』（講談社現代新書）、『勉強するのは何のため？』（日本評論社）、『どのよいうな教育が「よい」教育か』（講談社選書メチエ）などがある。

石川輝吉（いしかわ・てるきち）

一九七一年生まれ。哲学者。桜美林大学、日本社会事業大学、早稲田大学非常勤講師。著書に『カント信じるための哲学』（NHKブックス）、『ニーチェはこう考えた』（ちくまプリマー新書）など。

魚崎角（うおざき・かく）

一九七八年生まれ。兵庫県神戸市出身。修士（文学）。

金泰明（きむ・てみよん）

一九五二年大阪生まれの在日コリアン二世。大阪府八尾市在住。現在、大阪経済法科大学法学部教授。著書に『共生社会のための二つの人権論』（トランスビュー）、『欲望としての他者救済』（NHKブックス）、『人権は二つの顔をもつ』（トランスビュー）他。

竹田青嗣（たけだ・せいじ）

一九四七年大阪生まれ。早稲田大学国際教養学部教授。哲学者・文芸評論家。文芸評論、思想評論とともに、実存論的な人間論を中心として哲学活動が続ける。フッサール現象学を基礎として、哲学的思考の原理論としての欲望論哲学を構想。二〇一七年七月『欲望論』刊行予定。

山竹伸二（やまたけ・しんじ）

一九六五年生まれ。著述家・評論家。著書に『「認められたい」の正体』（講談社現代新書）、『「本当の自分」の現象学』（NHKブックス）、『不安時代を生きる哲学』（朝日新聞出版）、『子育ての哲学』（ちくま新書）など。